

2019年4月17日
公益財団法人イオン環境財団

ちょうこうしんじょう

4月20日（土）「中国武漢市長江新城桜植樹」を実施



外務省「日中青少年交流推進年」認定行事

公益財団法人イオン環境財団（理事長 岡田卓也 イオン株式会社名誉会長相談役）は、4月20日（土）、中華人民共和国（以下、中国）武漢市長江新城江灘公園において「中国武漢市長江新城桜植樹」を実施します。

武漢市東北部に位置する長江新城は、新たな産業発展モデル地区として、長江・東湖等の水に恵まれた自然環境を活かす「エコ&グリーン都市」を目指したまちづくりが進められているエリアです。このたびの植樹は、地域の皆さまとともに環境保全の大切さについて改めて考えるとともに、長く親しまれる桜の名所となることを願い実施するものです。

当日は、日中両国のボランティア300名の皆さまとともに、100本の桜を植樹します。ボランティアには、武漢市の大学生や「日本 中国ティーンエイジアンバサダー事業」※1において両国で実施した交流プログラムで学んだ高校生が多数参加することから、本植樹は外務省の「日中青少年交流推進年」の記念行事にも認定されています。

なお当財団は、中国各地で植樹活動を実施するほか、2015年に北京市人民政府と合意した「イオン北京環境提議」※2に基づき、武漢市の小中学校10校に太陽光発電システムを寄贈し、再生可能エネルギー活用のお役に立ていただくなど、環境保全、環境教育に資する活動を積極的に推進しています。

当財団は本植樹活動を通じ、日中のさらなる交流促進に貢献するとともに、今後もしのちあふれる美しい地球を次代の子どもたちへ引き継ぐため、さまざまな活動に取り組んでまいります。

記

日 時	2019年4月20日（土） 9:00～10:30		
場 所	武漢市長江新城江灘公園		
本 数	100本		
参加者	300名		
面 積	0.25ha		
樹 種	桜（ソメイヨシノ）		
主 催	公益財団法人イオン環境財団、武漢市長江新城管理委員会		
協 力	武漢市人民政府外事弁公室、武漢市園林・林業局 永旺（湖北）商業有限公司、永旺夢樂城（湖北）商業管理有限公司 武漢小竹物業管理有限公司		
実 施	武漢市緑化委員会弁公室、武漢園林緑化建設発展有限公司		
後 援	在中国日本国大使館		
出席者	武漢市人民政府	副市長	張文彤 様
（予定）	公益財団法人イオン環境財団	専務理事	林直樹
	イオン株式会社	代表執行役副社長	岡崎 双一
	イオン株式会社	執行役副社長	若生 信弥
	永旺（湖北）商業有限公司	董事総経理	杜若 政彦

※1 公益財団法人イオンワンパーセントクラブの事業の柱のひとつである「諸外国との友好親善の促進」を目指し、日本と中国の高校生が交流する事業です。

※2 2015年に開催された第4回「日中環境国際シンポジウム」の総括として、北京市人民政府と合意し、発表したものです。

ご参考

【公益財団法人イオン環境財団について】

「お客さまを原点に平和を追求し、人間を尊重し、地域社会に貢献する」というイオンの基本理念のもと、1990年に設立されました。設立以来、環境活動に取り組む団体への助成や、国内外での植樹活動、生物多様性への取り組みを主な事業として、さまざまな活動を続けています。イオンの植樹は1991年のスタートから数え、当財団の植樹本数を合わせて累計1,193万本（2019年2月末時点）を超えています。

（イオン環境財団ホームページ <http://www.aeon.info/ef/>）

中国における活動について

【植樹事業】

■1998年～2010年「万里の長城・森の再生プロジェクト」

「日中環境国際シンポジウム」での提案をきっかけに、当財団は1998年に「万里の長城・森の再生プロジェクト」を開始しました。継続的な植樹活動を通じて累計約15,000人の日中ボランティアの方々のご協力のもと、2010年には植樹本数が100万本を超えました。その後、2013年には育樹活動として、木々のメンテナンスなどを行いました。



2010年 北京市万里の長城植樹

■2005年～2007年「青島市ラオ山ダム植樹」

青島市にあるラオ山ダムは、黄河から水を引き、長く同市の水源として利用されていました。同ダムがその役割を終えたことに伴い、青島イオンが青島市政府から要請を受け、同ダムを市民の憩いの場とするため、青島市城陽区人民政府とともに植樹を行いました。3,493名の日中両国のボランティアの方々が、クロマツ、マルバハゼ、カエデ等30,000本の苗木を植えました。

■2008～2011年「山東省烟台市植樹」「山東省威海市植樹」

青島イオンは2008年7月、烟台市で3号店をオープンしました。それを機に烟台市から要請を受け、近郊の辛安河の水源涵養林の育成を目指して植樹を行いました。日中両国のボランティアの方々2,519名が25,000本を植えるとともに、市民間の日中友好を深めました。また同様に威海市において、日中両国のボランティアの方々1,400名が12,000本を植えました。



2008年 山東省烟台市植樹

■2014年「蘇州市植樹」

蘇州市が擁する中国第三の大きさを誇る淡水湖「太湖」周辺は、護岸工事などの開発により環境破壊が進んでいました。同市による生態系の修復および環境再生の計画に賛同し、700名のボランティアの方々と湖畔の埋め立て地に30,000本の植樹を行いました。東山鎮固有種であり他の地域では見られない柑橘系樹の植樹や育樹を実施し、地域の環境意識の向上を願うとともに、東山鎮の古い町並みや文化を保護し後世へ残します。



2014年 蘇州市植樹

■2016年、2018年「北京市密雲植樹」

密雲区は北京市北東部に位置しており、同市で重要な飲用水水源地であり、中国華北地域で最大の密雲ダムを有しています。同ダムによる水資源を守り、ダム周辺の水源涵養機能の向上を目指し、日中両国のボランティア1,600名の皆さまとともに、地域に自生する15,500本の苗木を植えました。



2018年 北京市密雲植樹

[環境教育事業]

■武漢市における太陽光発電システム寄贈

当財団は、設立20周年の記念事業として、2009年より再生可能エネルギー活用の啓発・普及と環境教育を目的に、日本・マレーシア・ベトナムの中学校へ太陽光発電システムを寄贈してきました。2014年までに3カ国で35校に寄贈しています。中国では、2015年に発表した「イオン北京環境提議」に基づき、環境教育を推進すべく、2016年より2年間にわたり武漢市の小中学校10校に寄贈しました。



2017年寄贈 光谷第九小学

[寄贈先]

(2016年) 光谷第九小学、育才行知小学、漢陽区玫瑰園小学、洪山実験外国語学校、江夏区何堰村小学 計5校

(2017年) 武漢市育才第二小学、武漢市育才怡康小学、武漢市新洲区陽邏街第五小学、武漢市陽邏經濟開發区第三小学、武漢市蔡甸区索河中学 計5校

■香港特別行政区における太陽光発電システム寄贈

武漢に続き、2018年に香港特別行政区の小中学校3校に寄贈しました。

[寄贈先]

滬江小学、東華三院邱子田記念中学、東華三院呂潤財記念中学 計3校



2018年贈呈式

■アジア学生交流環境フォーラム

2012年より、グローバルな視野で活躍する環境分野の人材育成を目的に、アジアの大学生を対象に「アジア学生交流環境フォーラム (Asian Students Environment Platform: ASEP)」を毎年実施しています。

中国では2014年に開催し、清華大学(中国)、早稲田大学(日本)、高麗大学校(韓国)、マラヤ大学(マレーシア)、ベトナム国家大学ハノイ校(ベトナム)の5カ国80名が参加しました。

教育プログラムは清華大学監修、早稲田大学協力によるもので、

「水と人」をテーマに、北京、天津、内モンゴル、成都などでフィールドワークを実施し、生物多様性について考察を深めました。「ASEP」には、2018年8月実施の第7回(マレーシア開催)までに、9カ国447名の大学生が参加しています。

本年8月にカンボジアで開催される第8回ASEPには、王立プノンペン大学(カンボジア)、清華大学(中国)、インドネシア大学(インドネシア)、早稲田大学(日本)、高麗大学校(韓国)、マラヤ大学(マレーシア)、ヤンゴン経済大学(ミャンマー)、フィリピン大学(フィリピン)、チュラロンコン大学(タイ)、ベトナム国家大学ハノイ校(ベトナム)10カ国80名の大学生が参加する予定です。



2014年 中国開催 ASEP

《日中環境国際シンポジウム》

当財団は、地球環境の保全が世代と国境を超えた課題であることをふまえ、日中のさらなる国際協力を促進するため、1993年から4回にわたり「日中環境国際シンポジウム」を開催しています。

第1回(1993年): テーマ「環境問題と人間社会」

「地球の未来を守るために」という共通視点のもと国際協力を促進するため、全体会議および分科会において活発な討論が行われました。海部俊樹元首相が出席され、民間レベルにおける環境協力についての指針がまとめられるとともに、シンポジウムの継続的な開催が合意されました。



第1回 日中環境国際シンポジウム

第2回（1995年）：テーマ「環境問題と人間社会」

撫順市での事前実地調査を討論資料とし、特に大気汚染対策に絞って両国の環境協力推進に合意しました。また、廣中和歌子元環境庁長官が出席され、都市の経済発展に伴う環境問題や環境保全の技術、環境法などについて討議が交わされました。本シンポジウム内で、環境保全の必要性と重要性を世界に向けて発信するため、「万里の長城・森の再生プロジェクト」が提案されました。

第3回（1997年）：テーマ「環境問題と人間社会」

海部俊樹元首相が出席され、経済社会の持続的発展に向けて、エネルギー対策と環境保全、水資源及び水環境の確保、経済、社会および環境が調和する発展戦略について議論されました。また、本シンポジウムを契機に「万里の長城・森の再生プロジェクト」の準備が始まりました。



第3回 日中環境国際シンポジウム

第4回（2015年）：テーマ「国際社会における環境改善と社会の持続的発展」

グローバルに活躍する両国の専門家・有識者が出席し、環境改善と社会の持続的発展についての討議が交わされました。また、本シンポジウムの総括として、世界に向けて「イオン北京環境提議」を発表しました。



第4回 日中環境国際シンポジウム

「イオン北京環境提議」

- 2016年～2018年の3年間で、下記に取り組むことを表明
1. 新たな植樹活動の取り組みを通じた日中ボランティアの交流
 2. 日中青少年環境教育活動を協同で取り組み環境保全に関する交流の促進

《武漢市政府からの表彰》

当財団の理事長 岡田卓也は2015年、武漢市国際諮詢顧問団として武漢市の発展に貢献していることを認められ、武漢市人民政府から「黄鶴友誼賞」を受賞しました。

《北京市政府からの表彰》

当財団の理事長 岡田卓也は、2009年、長年にわたる北京市の社会発展に貢献したことが評価され、北京市より「北京市榮譽市民」を受賞しました。

「北京市榮譽市民」は、北京市に貢献した外国人に与えられる最高位の称号で、これまでに世界で32名が受賞しています。日本人の受賞者としては3人目です。北京市で行われた授賞式で、郭金龍（当時）北京市市長より「北京市榮譽市民」の称号が授与されました。



「北京市榮譽市民」の称号を受賞

【公益財団法人イオンワンパーセントクラブ（以下、イオン1%クラブ）について】

1989年、ジャスコ株式会社代表取締役会長（当時）岡田卓也の提唱により、設立され、2015年に公益財団法人に移行。企業の業績にかかわらず継続的に活動するため、グループ主要企業各社が税引き前利益の1%を拠出し、「次代を担う子どもたちの健全な育成」「諸外国との友好親善の促進」「地域社会の持続的発展」を柱として活動しています。

■日本 中国ティーンエイジアンバサダー（高校生交流）事業（以下、日中T A）

イオン1%クラブは、「諸外国との友好親善の促進」を事業目的の一つとして掲げ、中国と日本の高校生が交流する「日中T A」を2010年から継続的に実施しています。2013年からこれまでに、武漢市から100名の高校生がこの事業に参加し、日本の高校生と親交を深めました。

本年は、7月に北京市、武漢市、蘇州市の高校生を日本に招聘し、また10月には日本の高校生が中国の同3市を訪問します。